



カンボジアの子どもたちに教科書を

2010年11月 No. 35

カンボジア便り

ワットハー小学校等に洪水被害

ご支援のお願い

10月に入ってカンボジアを襲った洪水により、当会が支援している10校の小学校すべてが被害を受けました。被害状況は各校で異なりますが、小学校までの通学路が浸水して小さい子どもが学校まで行くことができないことから始まり、小学校自体が浸水して休校とせざるを得ないなど、幅広く影響が出ました。プノンペン市内から当会が支援している小学校への道も、橋が完全に浸水し、人やバイクが船に乗って移動するといった状況が長く続きました。アンロンコンタマイ村に至っては、過去の洪水の時と同様に、村全体が水につかり、村民は家を離れて村の周りの土手に避難している状況でした。政府も洪水被害を深刻に受け止めて、年内は洪水被害の回復に集中的に取り組むよう市民に呼びかけ、関連法案の議論も始まっています。なお、現在確認できている範囲では、水は引いていて（あるいは水位がかなり下がって）、各校の業務は再開され始めていますが、洪水後の子どもたちの生活・教育環境の改善や小学校の復旧などは、これからの問題です。

～目次～

カンボジア便り	1
ワットハー小学校等に洪水被害 ご支援のお願い	
教科書支援の近況	
モデル校プロジェクトとリティさん来日 幼稚園の現状	
グローバルフェスタ2010に参加して	5
ビビンの会とわたし	
ABKフェスタ	6
スタッフ紹介	
会計報告	7
事務連絡	8



最も浸水被害を受けたワットハー小学校

このような中、当会が支援している10校のうちでは、ワットハー小学校が最も被害を受けております。次ページの写真は、洪水被害が始まって1週間あまりたった後のワットハー小学校の図書室の様子です。全体が浸水しているため、教科書を机の上に避難させています。大変残念ながら、この写真が撮られた数日後、さらに水位が160センチ程度まで急激な速度で上昇し、学校全体が浸水しました。この学校がある場所は洪水被害が最も深刻で、数年前に起きた洪水でも同様の被害を受けました。

当会としましては、洪水被害に苦しむワットハー小学校とその周辺に対して、どのような支援ができるかいろいろ検討しました。当然、物資・食料・飲料水・テントといったものが必要とされていると考えられますが、当会の規模や子どもの教育を支援する当会の目標から見て、このような支援は難しいという結論に至りました。幸いにして、村長の話によれば、政府が食料の支援などを始めているという情報も入っています。その上で、子どもの教育支援という原点に立ち返り、最も現在支援が必要なのは、洪水によりかなりの数が使用不可能になってしまったと思われる教科書の再支援であると考えております。ワットハー小学校の校長からも、最も緊急なのは教科書であるという依頼があったことを受け、現在、改めて補充が必要な教科書の数を集計する作業を行っています。



浸水した校庭に立つリティさん

以上の状況により、今回、特別に、洪水被害に苦しむワットハー小学校および今後判明する被害状況に応じた他校に対する追加支援のために、支援者の皆様からのご寄付をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

教科書支援の近況

留年や退学が減りました

ルセイサン小学校・ワットハー小学校への支援から始まった教科書プログラムですが、開始から1学年度が経過し両校における教科書支援の効果が色々な形で表れてきました。これまでは先生や子どもたちへのアンケートからよい効果があがっていることを確認してきましたが、具体的な数字もご紹介します。まず、ワットハー



ー小学校においては、前年度に比べて、進級率が 94.8%から 97.0%へ改善し、留年数は 30 人から 18 人へ、退学数に至っては 17 人から 0 人へと大幅に改善しました。教科書が手元にあることにより子どもたちが学校に行き、勉強することを楽しいと思えるようになってきたことが、数字として表れています。ルセイサン小学校に関しては、留年数が 44 人から 23 人に減り、教科書の効果も見受けられる一方で、進級率は 91.7%から 88.7%へと逆に悪化しており、貧しい家庭の割合が高い同小学校の問題点を改めて実感させられる結果となりました。

新たに 8 校に支援を拡大しました

このように、両校で差があるものの、当初の想定を上回る成果が得られたことを受け、10 月からの新学年度に合わせ、周辺の 8 校の小学校へも支援を拡大しました。下の表の通り、8 校合計で 3,061 名の子どもと先生（うち、子どもは 2,988 名）に対して、金額にして 4,415.94 ドル、冊数にして 5,259 冊（うち、子どもの教科書は 4,888 冊）の支援を行いました（正確には、市場で売っている教科書の在庫が無くなったため、1 校あたり 20 冊から 40 冊程度は入庫待ちの状況で、今後逐次購入していく予定です）。また同時に、昨年支援を行ったワットハー小学校へも 260 冊の教科書を補充し、ルセイサン小学校へも必要数が判明次第支援する予定です。

<新たに支援を行った小学校とその生徒数・教科書数・費用> 2010年10月

学校名	生徒・教師数	残存教科書数	支援教科書数	費用 (ドル)
Preyveng 小学校	337	842	448	\$374.59
Saksmrov 小学校	335	508	793	\$654.69
Kraingpongror 小学校	358	638	700	\$618.43
Preysar 小学校	471	953	758	\$637.77
Prekchrey 小学校	191	0	760	\$628.35
Toulsambo 小学校	432	1,190	368	\$330.94
Toul Rakarkoh 小学校	322	547	607	\$496.16
Trapaingsala 小学校	615	1,315	825	\$675.01
合計	3,061	5,993	5,259	\$4,415.94

注： Prekchrey 小学校は新年度において、2 校に分割されています。

本来であれば、教科書を持っている子どもたちの写真もお伝えしたかったのですが、10月にカンボジアの現地を襲った大洪水の為、現地の当会スタッフのリティさんも各校に行くこともできない状況が続いておりました。現在は水も引き、徐々に被害現状が把握され始めております。

モデル校プロジェクトとリティさん来日、幼稚園の現状

モデル校をつくります

教科書支援を10校にまで拡大しましたが、今後支援の質をいっそう上げ、将来さらに規模を拡大していくことを目指し、現在、支援先の小学校の中から「モデル校」を作ることを検討しています。具体的には、教科書支援を継続的に行い、「常に全ての子どもが教科書を持っている小学校」とし、支援前と支援後の比較を定量的に行うことを考えています。これにより、教科書支援の効果がより明確に把握でき、将来の支援拡大の計画にも役立つと考えられます。また、このモデル校の効果測定やモニタリングを現地の市の職員に行ってもらうことも検討しています。教育に携わる職員に教科書が不足している状況だけでなく、教科書があることによる効果を理解し、教科書に対する問題意識を持ってもらうことが主な目的です。当会が1校ずつ支援していくことも大きな一歩にはなりますが、政府が教科書に対する意識を高め、現状の教科書不足の問題に取り組むようになれば、自動的にカンボジア全国に教科書プログラムの成果を広げることができます。



教科書の1ページ

そのためリティさんを招きます

このモデル校プロジェクトは、まだ検討段階であり、どの学校でおこなうか、どのように職員を関与させていくか、など細かい内容をこれから固めて行かなければなりません。そのため、12月上旬にリティさんを東京に招き、互いに現状をしっかりと把握すると同時に、モデル校プロジェクトを中心とした教科書支援の今後の方向性を議論する予定です。

幼稚園のようすは

最後に、園児数の増加を目的として昨年10月から行ってきた幼稚園の通園バスは、前回のニュースレターでもお伝えしましたとおり、教科書支援と比較した費用に見合った効果などを検討した上で、10月からの新年度では中止することにしました。現在は、お坊さんやルセイサンの校長・先生方からの積極的な親への啓蒙活動を通じて園児数の増加を図っています。10月第4週の時点では、新年度、幼稚園に登録し実際に通園している子どもの数は12人に留まっています。洪水により幼稚園に行くことができないということも大きく影響していると考えられますが、引き続き状況を見守ると同時に、園児数増加の方策についても検討していきたいと考えています。(市井)

グローバルフェスタ2010に参加して

長村 歩実 (大学生)

私は大学で日韓を中心とした国際政治を学んでいます。国家間関係として語られる「ハイレベルな世界」の学びを通じて、様々な問題を抱える国際関係を個人レベルで考えた時、私自身には何ができるのだろうか、と考えるようになりました。たどり着いた結論は、「考えるだけでなく行動すること」「さまざまな生き方・価値観をもつ人と実際に触れ合うこと」「柔軟にインプットし、積極的にアウトプットすること」でした。日韓アジア基金のボランティアへの参加を決めたのは、NPOで活動すること・日韓アジア基金が行っている活動が、まさに私の「気づき」を具現化できるものだと思ったからです。そして今、この選択は間違っていなかったと確信しています。参加団体も来場者も想像以上に多いことや様々な地域・分野における援助の形があることに驚いたことに始まり、来場者だけではなく、ボランティア参加者や他団体の参加者との対話を通じて、理想を同じくする人と想いを共有することが行動につながることに、これまでボランティアに参加したことのなかった私がイベントに参加し、それを友人に伝えるという行動さえも、ひとつの“草の根活動”になり得るということに気づきました。と同時にボランティア文化・寄付文化といったものに対する理解や積極性を人から導き出すことの難しさも知りました。ポジティブな面にもネガティブな面にも新たな気づきを得られたからこそ、対話を通じて想いを伝え共有し、それらを実現できる場を創り出す機会が必要であることを認識し、そのために私にできることをしていきたいと改めて思うことができました。国際協力や開発援助に関心がある人だけではなく、「何か行動したいけど何をすればわからない」という想いを抱えている私のような人が、来年のグローバルフェスタに足を運ぶことで新しい一歩を踏み出すことができることを願っています。

ビビンの会とわたし

間崎 愛美 (会社員)

はじめまして。第14回ビビンの会にボランティアとしてグループリーダー参加をさせていただいた間崎です。ビビンの会との出会いは2010年4月。友人に誘われ参加しました。印象は安心して参加できるコミュニティ。ただの飲み会ではなく、しっかり互いを理解しあう時間とプログラムが練られており、アットホームな空気の中楽しく過ごすことができました。

そして7月、9月はグループリーダーとして参加。心掛けたことは、皆に心から楽しんでもらうこと。安心して自己表現出来るような空気感、場所を作ること。

楽しいと安心は伝染すると思うんです。だからまず自分がオープンな心で楽しむこと。そして「楽しい」を共有すること。「楽しい」が伝染したらしめたもの。安心できる空気の中、発言の機会を作り、バトンを渡す。皆に楽しんでもらえると私も嬉しい。もちろん私も一緒に交流に参加します。他己紹介やディスカッション、項目は色々ありますが全てをクリアすることが目的ではなく、楽しんで互いを理解しあうことが目的です。

今はビビンの会を通して出来た友人から、料理や韓国語の疑問点を教えてもらったり、逆に日本語表現の今一步の部分を教えたり、浴衣選びに付き合ったり、一緒に旅行に行ったり、かけがえのない友人を得ることが出来ました。

こうして沢山の友人が出来ること、知らなかった文化や国民性を知ることが出来ること。そしてなによりも楽しい時間を過ごせることがビビンの会の魅力かと思います。改めてスタッフの皆さま、ここで出会った友人たちへ。ありがとう。고맙워요.

ビビンの会未体験の方は「次は」、参加経験有りの方は「次も」!

皆でこの輪に飛び込みましょう♪ね!

当日は15名の頼もしいボランティアスタッフを中心に、当会のブースの飾り付けからイベント全体の設営、突如舞い込んだモンゴルのお国料理作りのお手伝いまで、まさにフルスロットルで動き回りました。集合したらまず自己紹介をして、段取りを説明して・・・という私の当初の構想はもろくも崩れ、朝から大忙しだったので。それでもアイデアを出し合っただけの飾り付けや、留学生たちとの共同作業（料理のことです）は楽しいもので、和気あいあいとしたとても良い時間でした。怒涛の準備を終え、いざ本番。モンゴル手伝い組がブースに来られないというハプニングもありましたが、無事開店し、韓国茶をふるまいながら活動内容や最近の洪水被害についての説明に励みました。ブースに来られた方の中には、カンボジアの教科書にじっくりと見入っている方、ビビンの会の写真を見て参加してみたいと言う方など、当会の活動に興味を持って下さる方が大勢いらっしゃり、大変うれしく思いました。と同時に、新米スタッフとしては、もっと知識を深めなければと身を引き締めた瞬間でもありました。

余談ですが、私は午前中のみでの参加で、お祭り自体はわずかな時間しか参加できていません。おいしそうなごはんの匂いをかきながらその場を後にするのは本当に無念でした。来年は絶対に終日参加するぞと心に決めています。皆さまもボランティアスタッフとして、お客様として、ぜひご参加ください！日本にいながらアジアを存分に満喫できる楽しいお祭りです。 (原口)

スタッフ紹介

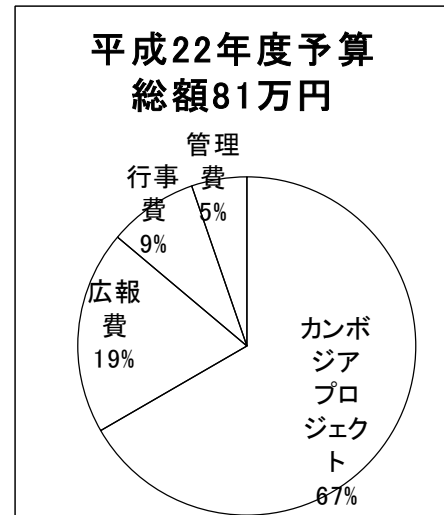
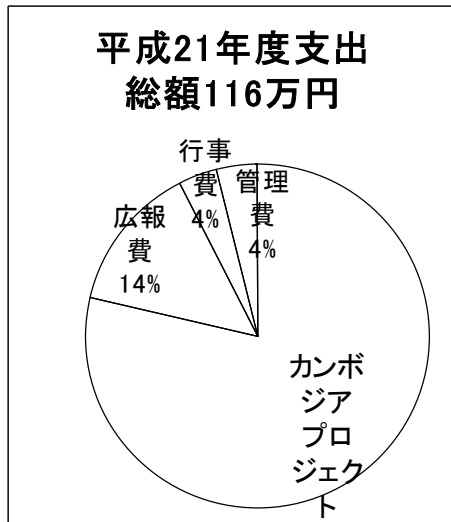
大学生 高藤里紗(たかとうりさ)



皆さま初めまして。私は高校在学中、二度の海外留学を経験し、そのうち一度は1年間現地の公立高校に通っていました。そこでは現地の人に加え、メキシコやドイツ、そして中国やベトナムなどさまざまな国の留学生がいて、異文化だらけの生活でした。中でもやはりアジア人とは生活スタイルや好みが似通っているためか親しくなり、双方の国の文化や歴史、価値観等、学ぶことが多々ありました。そのような環境で過ごしたことがきっかけで、帰国したら国際交流や国際協力に携わってみたいと考え、リサーチを重ねてきました。しかし高校生でできることは少なく、帰国後もなかなか自分のやりたいことに出会えずにいました。そんな時に知ったのがこの日韓アジア基金のビビンの会でした。全員が年上という中で、緊張や戸惑いを隠せずいた私でしたが、参加してすぐに独特のアットホームな環境にほっと胸を撫で下ろしました。そして初めてのビビンの会に突然ボランティアスタッフとして参加し、活動内容や概要を把握しきれないままグローバルフェスタ Japan に参加し、気がつけば半年も経たない間に文京国際交流フェスタではイベントリーダーを務めていました。初参加から早一年が過ぎ、今ではカンボジアの教育支援のみならず、アジアの子どもたちの支援にも興味を持ち始めました。学生のうちにさまざまな国を訪問し、少しでも現地の子どもたちと接したいと考えています。そしてライフワークとして何かしらの国際協力にこれからも携わっていきたいと思います。

お金の使い途を中心にした会計報告

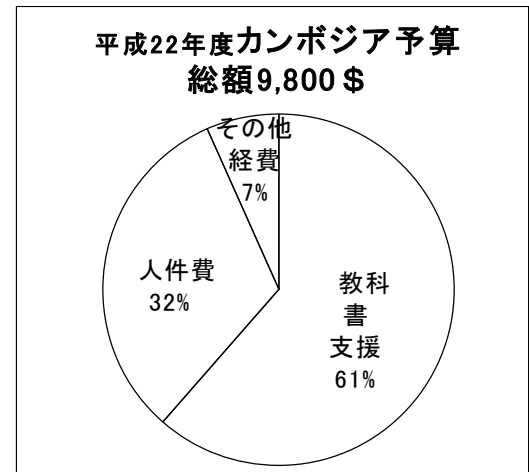
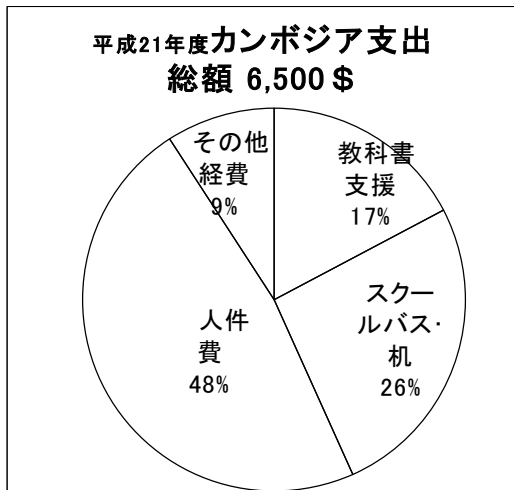
日本



1	当期はカンボジアでの幼稚園スクールバス及び教科書補填支援の実施のため、現地への送金が増えています。
2	支出全体に占める事業費の割合は96%です。これは国内スタッフが全員無償ボランティアであり、交通費等の経費も全額個人負担であることと、事務所家賃が無料であることなど当会独特の事情で
3	広報費の内訳は、ニュースレター発行10万円、イベントブース出展費3万円、年賀状2万円が主な内容です。

1	カンボジアプロジェクト:教科書支援費用54万円です。
2	広報費:ニュースレター10万円・イベント出展費等6万円です。
3	管理費:会議費・通信費3万円が主な内容です。

カンボジア



1	教科書支援の内容は以下の通りです。 ルセイサン小学校 教科書519冊・物語51冊 ワット・ハー小学校 教科書819冊・教師用指導要領48冊
2	スクールバスは2009年11月から開始し、6月で8カ月が経過しましたが、水祭りの休み1カ月分は支払わず、支払いが翌月払いのため、6カ月分が計上されています。
3	人件費はリティ氏の給与です。
4	その他経費の内訳は燃料代300ドル・整備代100ドル・駐車料金120ドルが主な内容です。

1	教科書支援は、予算を立案した7月には、新規8校とルセイサン小学校・ワット・ハー小学校の新規不足分を考えていました。しかし、このニュースレターの冒頭で報告した通り、洪水で多くの教科書が水に浸かったため、更に費用を上乗せしなければならなくなります。
2	人件費は、リティ氏給与3,120ドル/年です。
3	その他経費の9割は車の燃料代・整備費・駐車料です。
4	事務所を持たず、日本との連絡はインターネットカフェで行っているため、その他経費が大幅に低減されています。

第15回 ビビンの会のお知らせ

場所 東京千石 アジア文化会館

総会 12月18日(土) 14時~17時

参加をご希望の方は、このページ下部の「お問い合わせ先」にご連絡下さい。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

8月1日 ニュースレター34号 発送作業

北村宏大 齊藤里奈 佐藤薫 清水絵里 鈴木優香 滝加菜里 田村慎哉 本宮慎吾

9月25日 第14回ビビンの会 グループリーダー

秋山卓澄 ハヌル バンヒョナ 樋山浩平 間崎愛美

10月2・3日 グローバルフェスタ Japan 2010 ブース要員

秋庭淳志 一ノ関薫 及川瑠美子 長村歩実 風祭沙綺 川原聖子 国江晴香 小島杏
坂田光一郎 佐藤絵梨 高瀬めぐみ 仁ノ平智子 沼尻由佳

10月23日 アジア文化会館秋祭り 設営・ブース要員

秋庭淳志 岡和憲 長村歩実 笠原祐子 風見あゆみ 上出洋生 坂田光一郎 高江洲将行
立山東 仲里仁志 判澤奈那子 平野誠 松原大悟 森山佳苗

2010年7月26日~10月23日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

阿南 系代	大塚 紀子	川崎 由紀子	鈴木 晶子	福本 正勝	渡辺 良美
油谷 友加	大町 卓也	倉部 絹代	高橋 政行	松田えり子	
市井 秀治	大矢 幸信	栗田 瑞枝	高柳 直正	宮澤 和子	
岩見 豊子	金本 容子	小久保多美子	田野辺隆男	矢崎 芽生	
江本 哲也	金子十三松	芝村 篤樹	中田美智子	柳田 文子	

ABKフェスタ募金 | グローバルフェスタ2010募金 | イーココロ!匿名寄付

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。
 - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

E-メール: jkaf@ml.infoseek.co.jp

HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさって下さい。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也